

不登校児童生徒支援プランの推進

背景・課題

- 近年、盛岡市内小・中学校の不登校児童生徒数は増加傾向。令和4年度は小学校で194人（出現率1.43%）、中学校で297人（出現率4.25%）。不登校出現の低年齢化。
- 小・中学校ともに、不登校の要因や背景が年々多様化しており、対応の困難さも増している。
- 相談・支援を受けておらず、不登校が長期化している児童生徒に対し、必要な支援を行うことが極めて重要かつ喫緊の課題。

対策


- 市教育委員会事務局全課で、不登校対策の在り方について協議（対策本部）。
- 関係機関代表を委員とする不登校対策委員会を組織し、連携体制を構築。
- 新規不登校抑制の視点から、居場所づくりや絆づくりに向けた取組など、不登校を未然に防ぐ取組の充実を図る。
- 相談員等の人的支援や教育支援センター等を含む学びの場の充実を図る。

不登校児童生徒への対応や指導の在り方等の協議・情報共有

不登校対策委員会

- 市小学校長会
- 市中学校長会
- 市PTA連合会
- 市医師会
- スクールカウンセラー
- スクールソーシャルワーカー
- 児童福祉施設
- 児童相談所
- フリースクール
- 教育相談事例研究会
- 子ども未来部
- 在学青少年指導員

関係機関の代表により構成



学校の取組 不登校を予防する学校づくりの推進 「不登校未然防止 初期対応マニュアル（ver.2）」の活用

1 未然防止
「居場所づくり」と「絆づくり」
児童生徒主体の授業
教育相談の充実

2 初期対応
小さなSOSにチーム学校で対応
ケース会議、関係機関との連携
保護者との情報共有

3 自立支援
校内教育支援センターの拡充
学校外の学びの場との連携
チーム学校による家庭環境支援

校内教育支援センター
自分のクラスに入りづらい児童生徒が、落ち着いた空間で自分にあったペースで学習・生活できる環境を学校内に設置。
設置校 小学校12校、中学校20校
(令和5年6月現在)

学校づくりの支援

- 担当指導主事による学校訪問
 - ・「不登校対策好事例集」の活用
 - ・盛岡市学力向上推進事業「小学校学級経営」「小・中学校授業づくり」支援訪問
 - ・「不登校未然防止 初期対応マニュアル(ver.2)」の活用促進
- 学校経営ヒアリング
 - ・内容の一つとして、「不登校に係る取組について」を位置付ける（5月中旬～6月上旬）
- 教員研修の充実
 - ・盛岡市教育研究所公開講座「不登校対策講座」「特別支援教育講座」「教育相談講座」
- 教育相談員等による学校訪問
 - ・盛岡市教育研究所の教育相談員及び専門指導員が中学校を訪問し、各校の不登校生徒及び別室登校の状況を把握。支援についての情報交換。
- 専門研究員による研究
 - ・盛岡市教育研究所の専門員研究として「児童生徒の不登校対策に関する研究」を推進。
※市内小・中学校の対応状況把握
※ひろばモリーオ、フリースクールの状況把握
※岩手大学との共同研究
- 研究発表大会での研究成果の普及・還元
日時：令和6年1月5日（金）
内容（不登校関連）
 - ・専門研究員による研究【再掲】
 - ・教育相談事例研究会による研究

支援体制の整備

- 毎月の長欠報告による状況確認
 - ・児童生徒の欠席状況を学校から市教育委員会へ報告。担当指導主事が電話等により、支援体制の在り方について指導・助言。
- 校内体制への人的支援
 - スクールカウンセラー
小学校22校（41校中）、中学校22校（22校中）に配置
 - スクールソーシャルワーカー
エリア型SSW 1名、配置型SSW 3名を活用
 - 不登校対策相談員
中学校16校に15名配置
 - スクールアシスタント：小・中学校に68名配置
- 個別相談会の実施（岩手大学との連携）
 - 目的
複雑な家庭環境や学校では対応困難と考えられる事例について、岩手大学教授が臨床心理学の見地から助言。
・年2回実施（6月と10月）
・個別相談のケースについて、その後の対応の実際や経過について追跡し、場合に応じて支援を行う。
- 教育相談窓口の設置
 - 目的
盛岡市内の児童生徒、保護者、教職員及び市民の直面する様々な教育課題に関する相談を行い、その改善・解決を支援する。
 - 職員配置数
教育相談室（教育相談員3名）

学びの場の保障

「ひろばモリーオ」の運営

- 目的
不登校児童生徒の社会的自立に向け、教育相談を行いながら、一人一人に応じた学習・生活等の適切な支援を行う。
- 設置教室及び職員配置数
(1) 青山教室（教育相談員1名、専門指導員2名）
(2) 仙北教室（専門指導員2名）
- その他
 - ・学習のほか、様々な体験活動を実施。
 - ・R4年度、両教室にWi-Fi環境を整備。

家庭でのICT活用

- ・GIGA端末持ち帰り運用の推進
- ・AIドリルの導入

いきいきスクール

- 目的
様々な体験活動を通して、人との交流を図りながら、自立性や活動意欲を高め、集団への適応力を高める。
- 参加者
盛岡市及び近郊市町の不登校（傾向）及び別室登校の児童生徒
- 実施回数及び内容
年5回
農業体験、文化施設体験学習等

フリースクールとの連携

- 市教育委員会による訪問、情報共有
- 「連絡会議」に向けた情報収集
- 不登校対策委員会にフリースクール代表が参加
- 関連イベントの後援等